

そのとき私たちができたこと
 ～東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災～

小陳 左和子 (こじん さわこ)

1. 東北地方太平洋沖地震の発生

2011年3月11日(金) 14:46

マグニチュード 9.0 / 最大震度 7 (仙台市街は震度 6 弱)

当日の附属図書館（本館）の状況

14:46	携帯電話から緊急地震速報が流れる
	まもなく地震発生（本震は約 3 分間）
	全館停電、非常灯のみ点灯
	発生時点で館内にいたのは、利用者 180 名+職員 60 名=240 名程度
	職員が利用者に「落ち着いてください」「書架から離れてください」「机の下に入ってください」と大声で連呼
14:49	揺れが収まった頃、利用者を館外へ避難誘導
	職員が手分けして各フロアの状況を確認
	利用者・職員は正面玄関前の広場へ集合
	閲覧担当係長がカウンターから、拡声器、手回し充電式ラジオ、救急箱を持ち出す
15:10	荷物を持たずに避難した利用者に、荷物を取りに入館してもらう （大きな余震が頻発していたため、危険なときには避難しやすいように、 拡声器で呼びかけて 10 名程度ずつに分け、職員が引率して入館）
	その間、手回し充電式ラジオで情報収集 →津波で仙台空港に千人以上孤立
15:40	利用者の荷物取り出し終了
15:45	全館無人になったことを再度確認、持ち主が現れず残っていた荷物を搬出
	余震が続いており、残っていた利用者に、明るいうちに帰るように促す
	長時間通勤、幼児・要介護者のいる職員、非常勤職員に帰宅指示
	（雪が降り始める）
16:00	残った職員で今後の行動を協議 （街や交通機関の状況が把握できないため）翌土日は出勤しないこと、月曜は可能な限り出勤することを確認し、解散
16:30	正面玄関に臨時休館の貼り紙をして施錠

2. 東日本大震災による東北大学の被害

(1) 東北大学全体の被害

人的被害	学生 3 名死亡（入学予定者を含む。実家等の学外で津波被災）
建 物	×危険 28 棟(4.7%) △要注意 48 棟(8.2%) ○安全 521 棟 建替・改修等で 448 億円の損害
研究機器	352 億円の被害
研究材料	生物系の研究室で、多くの貴重な細胞・資料の損失

(2) 附属図書館（本館）の被害

人的被害	なし
設 備	壁・天井の破損・落下多数 → 立入禁止区域 窓枠ゆがみ → 開閉不可 空調機パイプ破損 → 水漏れ、冷暖房運転不能 エレベータ 1 基損壊 → 運転不能
書 架	一部ゆがみ等の破損 → 要・補修
蔵 書	約 87 万冊落下（225 万冊中） → 要・整理 一部破損（含・貴重書） → 要・修復
電子機器	利用者用・業務用 PC・サーバ 破損なし 共有ファイルサーバのディスク故障 → 要・修復



3. 4つの観点から

3.1. 備えと判断

(1) 施設・設備の備え：人命を守るために

- 建物の耐震性
- 書架の転倒と本の落下
- 避難経路・非常口の整備

(2) ひとりひとりの備えと判断

【ある学生のツイッターから】 (2011年3月24日)
東北大の図書館の女性スタッフが、すぐに「机に隠れて」と指示を出して、どんなに揺れても、本が落ちて、電気が切れても、ずーっと「落ち着いてください」と叫び続けてくれた。自分だって怖いはずなのに。ぎりぎり冷静でいられたのはあの人のおかげだと思う(^^)

(3) 適切な判断のための備え

- マニュアルの作成
 - ・ 自館の環境・状況に即した内容を
 - ・ 開館中に発生した場合の行動（日中／夜間／休日）
閉館時に発生した場合の対処
- 防災訓練
 - ・ 利用者に信頼されるために
 - ・ 訓練形式の工夫
講義型 / 体験型 / 発災想定型 / 避難訓練 / 伝達訓練
災害図上訓練 / カードゲーム形式

(4) それでも判断は難しい

例1：どれぐらいの規模の地震が起きたら、避難する／避難させると決断しますか？

例2：館外へ避難した後、利用者から「館内の公衆電話を使わせてもらえないか？」と言われました。どうしますか？

3.2. 協働・支援

(1) 学生ボランティア

- 東北大学地域復興プロジェクト “HARU”

- ・ 東北大学の学生が 2011 年 3 月 24 日に創設、まもなく大学公認の組織となる
- ・ 2011 年 5 月時点で、約 1,000 名の学生が登録
- ・ 県内の被災地・避難所で活動するほか、附属図書館の復旧作業に参加
- ・ 附属図書館では 2011 年 3 月 31 日～6 月 9 日に活動(延べ 1,000 名以上が参加)

【HARU 名称の由来】

厳しい冬の寒さに耐えながら、春を待つ。
私たち東北は、やがて来る暖かな春の喜びを知っている。
今どんなに辛い事、悲しい事があっても、
季節は必ず巡り、“春”がやってくるように、
夢も希望も幸せも必ず東北の地にやってくる。
天氣が晴〔は〕れ、木の芽が張〔は〕り、
田畑を墾〔は〕って、万物が発〔は〕る。
みんなさまざま、きもちは一つ。
全てここから、HARU を東北に。



(2) プロボノ

- saveMLAK

(博物館 Museum, 図書館 Library, 文書館 Archives, 公民館 Kominkan)

- ・ 施設の被災情報（どのような被害を受けたか）や救援情報（どのような支援を必要としているか）を収集・集約・提供、ボランティアの派遣・仲介
- ・ M L A K の関係者等の有志によって構成されるプロジェクト
- ・ 2011 年 3 月 12 日に savelibrary などを立ち上げ、4 月に M L A K を統合
- ・ 東日本大震災(2011)、北関東・東北豪雨災害(2015)、熊本地震(2016)など
- ・ 東北大学、東北学院大学、名取市図書館、南三陸町図書館の開館支援など
- ・ 震災訓練プログラム「saveMLAK メソッド」の開発と実践

- マイクロ資料専門家ボランティア

- ・ 2011 年 6 月 2 日～3 日の 2 日間、東京のマイクログ資料関連会社の社員有志 9 名が附属図書館へ来館
- ・ 散乱したマイクログフィッシュ数万枚の整理、損傷したキャビネットの点検調査
- ・ saveMLAK の仲介（支援希望者と受援希望者のマッチング）により実現

(3) 大学図書館間の協力

- 図書館利用サービス

全国の大学図書館が、被災大学の教職員・学生に対して、図書館サービスを提供（蔵書の閲覧・複写・貸出、パソコンや個室の利用など）

- 電子ジャーナルの無料提供
被災地の研究者や医療従事者に対して、一部の電子ジャーナル、データベースを無料で提供

(4) 全国の仲間から

- 復旧作業手伝いのお申し出
- 支援物資
- お見舞・励ましのメール・手紙・電話 etc.

3.3. 情報発信

(1) saveMLAK ウェブサイトへの記入

3月12日(土)～ 被害・復旧状況を記入・更新

※停電のため、附属図書館公式サイトへはアクセス不能

(2) ツイッター

3月14日(月)夜、附属図書館公式ツイッターアカウント @hagi_no_suke による発信を開始

(3) 電子メール

国内外の図書館関係者、知人からのお見舞・励ましへの返信

(4) ウェブサイト

3月15日(火)午後、電気復旧により附属図書館公式ウェブサイト再開

(5) 図書館入り口への掲示

館内の状況を写真等で示すことにより、利用者へ休館への理解を求める

(6) 東北地区大学図書館の被災状況の収集・発信

東北地区大学図書館協議会の常任幹事館として、加盟 65 館の状況を収集・発信

3.4. 記録を残すこと／遺すこと

(1) 書いて・話して・写して残す

- 自らの経験を、事実・データとともに書いて／話して残す
- 写真を残す（被害状況、復旧過程、定点観測）

(2) 収集して遺していく

- 優れた先行例 神戸大学附属図書館「震災文庫」
- 図書館共同キャンペーン「震災記録を図書館に」
- 東北大学災害科学国際研究所アーカイブプロジェクト「みちのく震録伝」

4. おわりに

(1) ひとつとして同じ図書館はない ～ 状況・環境はさまざま

- ・ 図書館はどこに建っている？
- ・ 大学本部との距離は？
- ・ 建物の構造は？
- ・ 複合施設？ 単独施設？
- ・ どういう人がどれくらい利用している？
- ・ 職員の数は？ etc.

(2) 他人事ではなく自分事として

(3) 自分を守る：「津波てんでんこ」の教え

【参考文献】

- ◇ 小陳左和子. そのとき私たちができたこと：東北大学附属図書館が遭遇した東日本大震災. 大学図書館研究. 2012, no.94, p.1-11.
※「東北大学機関リポジトリ"TOUR"」で公開
- ◇ 小陳左和子. 東日本大震災における一橋大学附属図書館の対応：発災後3年を迎えての記録. 一橋大学附属図書館研究開発室年報. 2014, no.2, p.68-88.
※「一橋大学機関リポジトリ"HERMES-IR"」で公開

略歴 小陳 左和子 (こじん さわこ)

1987.3 図書館情報大学 (現 筑波大学) 卒業

1988.4 富山大学附属図書館 採用

1992.4 学術情報センター (NACSIS) / 国立情報学研究所 (NII)

2009.4 東北大学附属図書館情報サービス課長

2012.4 一橋大学学術・図書部学術情報課長

2014.4 大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE) 事務局長
(国立情報学研究所学術基盤推進部図書館連携・協力室長)